

人権ほつと五年十月号

「あと一日早ければ…」

戦争と人権問題」

大阪教育大学名誉教授

堀 薫夫

人権侵害の最たるものは何かといえばやはり「戦争」だろう。ロシアによるウクライナ侵攻、あるいは広島・長崎への原爆投下などとそれにもなう人びとの日常生活の破壊。唯一の核被爆国である日本は、その悲惨さを世界に向けて発信しつづけねばならないだろう。日本の周辺国を見渡しても、朝鮮戦争は休戦中（まだ終結していない）だし、台湾や香港をめぐる緊張関係も根深い。

八月一五日は終戦記念日。では八月一四日は何の日かご存知だろうか？ 大阪市の京橋駅の環状線ホームなどが空襲に遭い、五〇〇人以上が亡くなった日である。JR京橋駅の南口近くには慰霊碑があり、当日には毎年慰霊祭も開かれる。駅のホームにいた多くの人が、ただそこにいたというだけで犠牲になられたのである。終戦が「あと一日早

ければ」このようなことにはならなかったのと思う。

大阪城の近くにはピースおおさか（大阪国際平和センター）がある。大阪は五〇回以上の空襲を受け、一万五千人もの人が犠牲になっている。その悲惨さを後世までに伝える施設でもある。ここでいう「大阪」は大阪市だけではなく。堺市や東大阪市などの府下近隣市も被害に遭っている。われわれはともすれば、戦争の悲惨さを海外のことや遠い地域のことと考えがちだが、身近なところに戦争の傷跡は存在する。なお柏原市でも八月に、市民文化会館で平和展が開催されている。

セクハラやパワハラなど、「それって人権侵害なのでは？」と考えさせられる出来事が散見される。しかし戦争による民間人の犠牲は、「考えさせられる」ことなどない、ストレートな人権侵害なのである。そして毎年八月には、この問題を考えさせられる。